

JSSECへの期待はどう変わって行くのか？

～ 環境の変化にあわせ原点に戻り
新たなチャレンジへ ～

2016年5月25日

一般社団法人 日本スマートフォンセキュリティ協会
利用部会 部会長 後藤 悦夫 (ラック)

■ JSSECへの期待はどう変わって行くのか？

設立時の思いを継続する事と、変えていく事は何か？

JSSEC設立時の目的（ホームページより）

- **企業・団体における利用者が安心して高度なサービスを受けられるようにする。**
- **実装すべきセキュリティレベルの理解を社会に浸透させ、提供者が安心して事業推進を行えるようにする。**
- **利用者のセキュリティリテラシー向上のための活動も行い、さらに高度なサービスを受けられるようにする。**
- **セキュリティを切り口とした「信頼できるニッポン！」を確立しグローバル市場へアピールする。**

■ JSSECへの期待はどう変わって行くのか？

設立時の思いを継続する事と、変えていく事は何か？

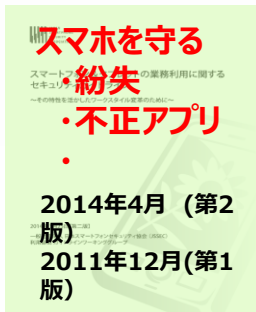
取巻く環境認識（5年前と変わった、5年後は変わっている）

- 企業の関心事 : スマホを活用した「働き方変革」
→ IoT、FinTec、AIを活用した「ビジネス変革」
- 働く環境 : 一億総活躍時代
→ 新たな働き方変革への更なるIT寄与
- 技術的な環境 : IoTに向けたオープン技術の活用
→ ユーザーインターフェース（UI）はスマホ活用が有力
- セキュリティ人材 : 外部の攻撃が高度化、IoT=繋がる組込み系
→ 広範囲な人材育成
- 社会的な環境 : オリンピック開催
→ 海外からのお客様への社会インフラ整備

■ JSSECへの期待はどう変わって行くのか？

2010 ~ 2015

スマホのガイドライン



情報とサービスを守る

- ・メール
- ・SNS
- ・ストレージサービス
- ・クラウド業務アプリ

2016 ~ 2020

社会と生活を守る

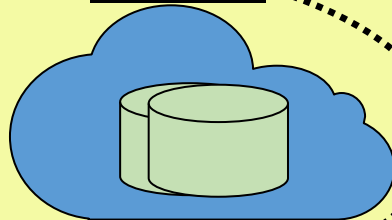
- ・社会インフラ
- ・車
- ・家電
- ・新たな産業AIやFinTec

スマートフォン



人のインターネット化

クラウド



情報のインターネット化

IoT、FinTec、AI、ドローン



モノのインターネット化
→サイバーとフィジカルの融合

推進上の課題 ・ 広い知見を集める為の体制 (例えば大学などとの協調)

■ JSSECへの期待はどう変わって行くのか？

設立時の思いは継承し、活動のベクトルと成果を変えて行く

JSSEC設立時の目的と活動のベクトル

- **企業・団体における利用者が安心して**高度なサービスを **受けられるようにする。**
- **実装すべきセキュリティレベルの理解を社会に浸透させ、提供者が安心して事業推進を行える**ようにする。

- スマホを活用した働き方変革 → **IoT、FinTec、AIを活用しビジネス変革**
- 一億層活躍時代 → **新たな働き方変革**
- IoTに向けたオープン技術の活用 → **UIはスマホ活用が有力**

- 利用者の**セキュリティリテラシー向上のための活動**も行い、さらに高度なサービスを受けられるようにする。
- **セキュリティを切り口とした「信頼できるニッポン！」**を確立しグローバル市場へアピールする。

- 外部の攻撃が高度化、組込み系セキュリティ → **広範囲な人材育成**
- オリンピック開催 → **海外からのお客様への社会インフラ整備**

■ JSSECへの期待はどう変わって行くのか？

環境変化を受け、今後の活動の重点をどうするか

- スマホを活用した働き方変革 → IoT、FinTec、AIを活用しビジネス変革
- ◆ IoT、FinTec、AIの活用事例、事故事例調査・発信など..
- 一億層活躍時代 → 新たな働き方変革
- ◆ モバイル・在宅ワークのための○○○研究など..
- IoTに向けたオープン技術の活用 → UIはスマホ活用が有力
- ◆ IoTとスマホ連携に関するセキュリティ考慮点など..
- 外部の攻撃が高度化、組込み系セキュリティ → 広範囲な人材育成
- ◆ 人材育成につながる活動（WG/TF活動、産学協同..）
- オリンピック開催 → 海外からのお客様への社会インフラ整備
- ◆ サイバー治安向上（野良WiFiや野良IoTを防ぐには..）

ご意見お願い致します！

JSSEC 2016 新活動スローガン

JSSEC ACTION 2016

スマートフォンからIoTの世界へ
進むべき世界、守る力とともに

利用部会の活動はどう変えていくのか

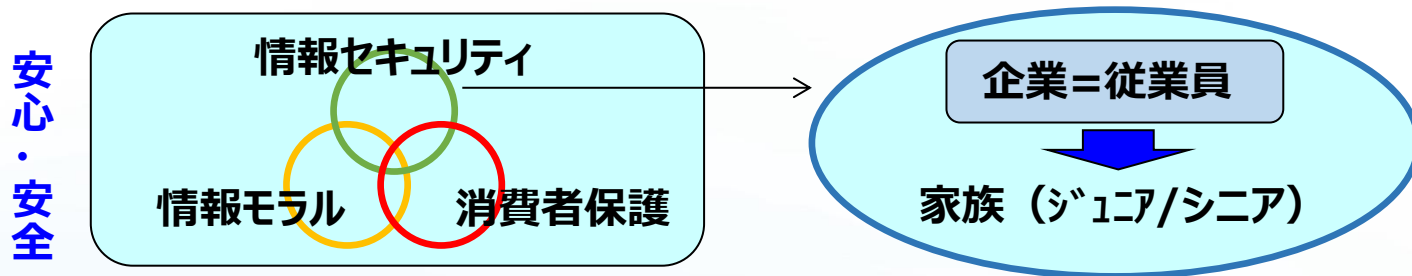
～ 環境の変化にあわせ原点に戻り
新たなチャレンジへ ～

利用部会
部会長 後藤 悦夫
(株式会社ラック)

■ 2015年度の利用部会活動のふりかえり

■ 方針1：スマホ利用の啓発活動の取り組み拡大の検討（深化）

- ・対象の拡大検討（中小企業、シニア層、地方）
- ・活動の連携先検討（セミナー開催者、勉強会コミュニティ）



講演依頼1件、取材対応1件にとどまり十分な活動に繋がらなかった。

- ・中小企業のスマホ利用の課題（PW無し等）は大きい（IPAの調査結果）
- ・企業向けセミナーのテーマでスマホが激減（集客が見込めない？）

→ 次年度の活動方針の見直しが必要

■ 2015年度の利用部会活動のふりかえり JAPAN SMARTPHONE SECURITY ASSOCIATION

■ 方針 2 : IoT 調査・研究の推進 (新化)

- ・ IoT 勉強会 (年 4 回の部会年間テーマで取り上げる)
 - ・ IoT 調査・研究 TF を立ち上げ (7月9日に準備会開催予定)
- ➔ **利用ケースを整理しJSSEC活動範囲議論、→次のStep**

◆ 部会アンケート (新分野のセミナーへの期待大)

WG/TFに参加	年4回講演に参加		興味ある講演	興味ない	
21%	50%		43%	0%	
講演	とても良い	良い	普通	まあまあ	悪い
①	53%	33%	7%	7%	0%
②	45%	45%	10%	0%	0%

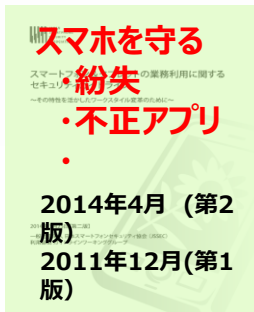
- ◆ TF (5回) 活動を通じ、IoTとセキュリティの重要性が認識できた。
 - ・ 幹事会にてスマホを軸足としIoTへ活動を広げていくとの方針決定
 - ・ スマホとの関連や範囲の広さ、効果的事例の少なさなど課題も多い

➔ **次年度は活用事例、事件事例を集め具体的な議論が必要**

■ JSSECへの期待はどう変わって行くのか？

2010 ~ 2015

スマホのガイドライン



情報とサービスを守る

- ・メール
- ・SNS
- ・ストレージサービス
- ・クラウド業務アプリ

2016 ~ 2020

社会と生活を守る

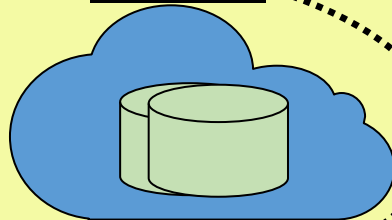
- ・社会インフラ
- ・車
- ・家電
- ・新たな産業AIやFinTec

スマートフォン



人のインターネット化

クラウド



情報のインターネット化

IoT、FinTec、AI、ドローン



モノのインターネット化
→サイバーとフィジカルの融合

推進上の課題 ・ 広い知見を集める為の体制 (例えば大学などとの協調)

■ JSSECへの期待はどう変わって行くのか？

環境変化を受け、今後の活動の重点をどうするか

- スマホを活用した働き方変革 → IoT、FinTec、AIを活用しビジネス変革
- ◆ IoT、FinTec、AIの活用事例、事故事例調査・発信など..
- 一億層活躍時代 → 新たな働き方変革
- ◆ モバイル・在宅ワークのための〇〇〇研究など..
- IoTに向けたオープン技術の活用 → UIはスマホ活用が有力
- ◆ IoTとスマホ連携に関するセキュリティ考慮点など..
- 外部の攻撃が高度化、組込み系セキュリティ → 広範囲な人材育成
- ◆ 人材育成につながる活動（WG/TF活動、産学協同..）
- オリンピック開催 → 海外からのお客様への社会インフラ整備
- ◆ サイバー治安向上（野良WiFiや野良IoTを防ぐには..）

■ 利用部会の目的および目指す成果

利用部会の活動はどう変えていくのか・・・

- スマートフォンの安全利用促進のための『**事実**』に基づいた情報の収集とその共有のための情報発信を目的とする。（ホームページより）

➡ **4～6月に拡大リーダ会を設置し、活動の方向を議論中**

◆ 情報収集や事例調査の**対象や範囲を拡大**

- + スマホを基軸に、IoT、FinTec、AIなどを順次拡大し、「ビジネス変革」時代の安心・安全とは・・・
- + 新たな働き方： 一億総活躍、ダイバーシティー拡大はモバイルワークの拡大やヘルスケア（健康管理、ストレス対策）が求められる・・・

◆ 人材育成へ繋がる活動

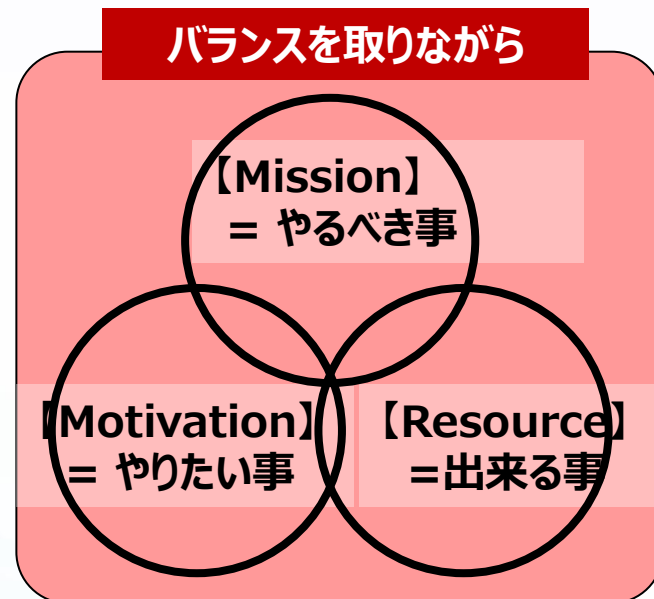
（個社では実現出来ない会員メリット）

- + WG・TFの活性化： ワークショップ、事例見学、国内海外の事例調査
- + 産学連携： 知見の拡大や最新情報

■ 皆さんへの協力をお願い

◆ WG・TF活動に積極的に参加願います

- ・個人にとっても組織にとっても
- ・人材育成のチャンス
- ・2点を考慮して行きたい
 - ①活動のバランス
 - ②参加しやすい活動形態



WGやTFで得られる事

- ・新たな知見や気付き、視点
- ・人的ネットワークやコミュニティ

成長や幅が広がる



所属組織への貢献

◆活動の負担はかなり大きい → 新しいメンバーが参加しやすくハードル下げる工夫

ご意見お願い致します！

技術部会 振り返りと今後

技術部会

部会長 谷田部 茂

(株式会社フォーマルハウトテクノロジーソリューションズ)

- スマートフォンを安全に利用するための技術的な調査・研究・議論を行う。
- 具体的には4ワークグループで構成し成果物を公開する事で、日本におけるスマートフォン利用の安全性向上に寄与する事を目的として設置

成果は？

公開した成果物

- 『スマートフォンネットワークセキュリティ実装ガイド』
- 『スマートフォンの業務利用におけるクラウド活用ガイド』
- 『スマートフォンの業務クラウド利用における、端末からの業務データの情報漏洩を防ぐことを目的とした、企業のシステム管理者のための開発・運用管理ガイド』
- 『情報収集モジュール提供事業者に関する調査』
- 『Android アプリのセキュア設計・セキュアコーディングガイド』
- 『スマートデバイスの堅牢化ガイド』
- 『MDM導入・運用検討ガイド』
- 『MAM/MCM利用ガイド』
- 他、スマートフォン・マルウェアやセキュアコーディングのセミナーなど

その中で何が主流だったか？

新しいデバイスである スマートフォンからの情報漏洩対策

それ以上に、技術者としてのワクワク感がありましたよね？！
だって、新しいデバイスだったんですから・・・

停滞気味な事を認めましょう。

- 課題のやりつくした感
- スマートフォンもコモデティ化した
- 等々 . . .


技術部会の今後

技術者としての、ワクワク感を取り戻したい！
そういう部会に変化させて行きたい。

色々ありそうですね。
だって、スマートフォンは情報を提供する道具でも
あり、受け取る道具でもあるんですから！



Network



AIによる情報加工・探索
・マイニング・アレンジ・その他

**みつけましょう！
ワクワクできる事！**

そのためのご協力を宜しく申し上げます。

啓発事業部会 振り返りと今後

啓発事業部会

部会長 小池 勉

(株式会社コンテンツブレイン)

啓発事業部会 これまでの活動

事前調査で解った実施の課題

急速なスマートフォンの普及に対策が**追い付かない。**

サイバーセキュリティー教育において**人材が不足している。**

SNSの急速な変化により、**子供たちの使い方が解らない。**

サイバー社会との**関わり方の答えがまだ見えない。**

多感な世代に対して、**押し付けマナー教育では効果が薄い。**

課題に対し、私たちは下記の対策を考えました。

1. 様々な分野の方の意見を取り入れる

一部の人たちがこの問題を考えるのではなく、より広い分野の人々が考え対策を行っていくことができるようにプランを基に啓発活動を行う。

2. 大学生との協力（生徒に近い世代の活用）

生徒たちと年齢が近い大学生と連携し、「ジェネレーションギャップのない話し合い」を行う。

3. 新たな教育プログラムへの取組＝ ワークショップ教育（アクティブラーニング）

授業形式ではなく、「こういう場合、どうしたらよいか？」という「自ら考える力」を生徒たちに身につけてもらう教育プログラムを開発・普及する。

大学生の役割

中高校生に近い世代、大学生を講師にすることで

「経験から語る」

「同じ目線で考える」

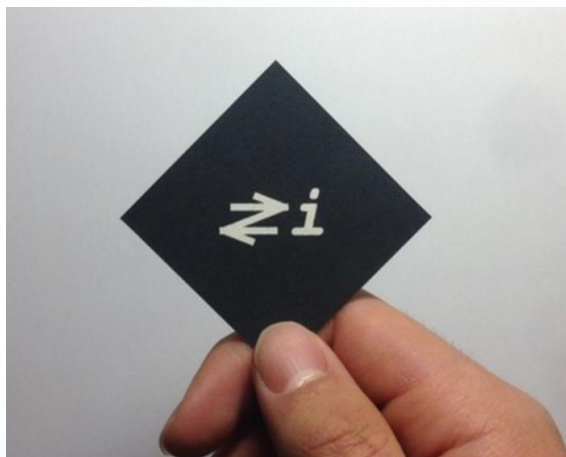
「先輩からの伝承」

ワークショップ形式の授業
を中心にした活動を行う。

ワークショップ
活動



学生団体Re:incとは



「Re:inc」(リンク)

高校生から小学生までを対象にサイバー防犯ボランティア活動を行っている学生団体です。
2014年12月に日本スマートフォンセキュリティ協会（JSSEC）、警察庁、神奈川県警、などと連携しながら、活動をスタート。



慶応義塾大学、明治大学、中央大学、東京大学などの学生が参加しています。

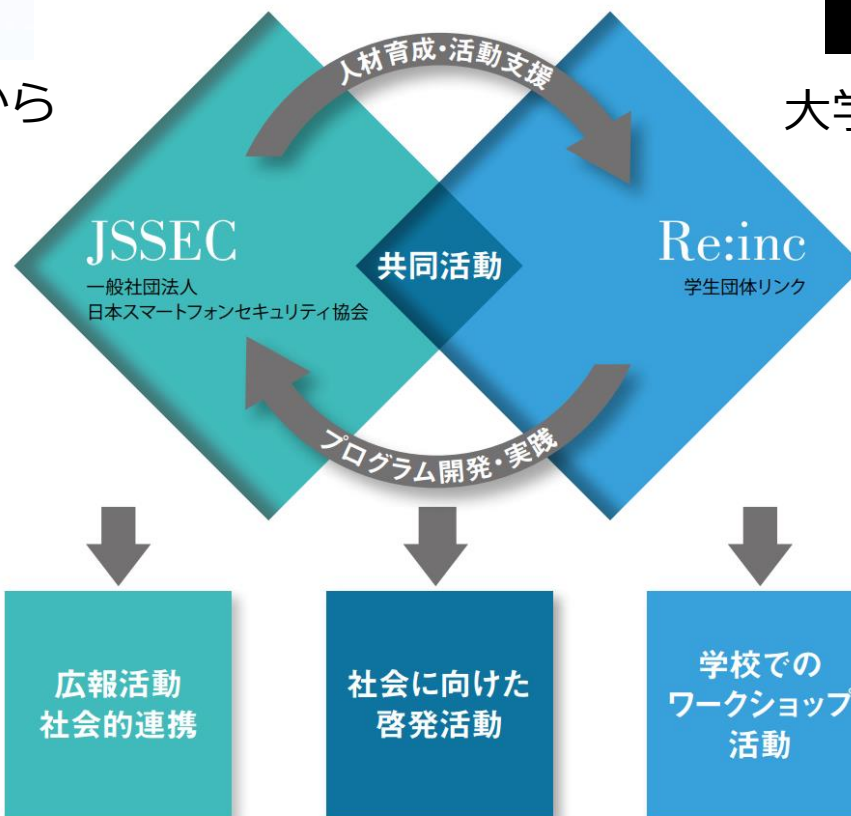
啓発事業部会の活動とは



企業・社会人だから
できること



大学生だからできること



2015年活動報告実績

学校での
ワークショップ
活動

小中学・高校生、向けワークショップ活動 (スマートフォン・セキュリティ・ワークショップ = SSWS)

中学生に



YKワークショップ

2015年7月7日 火曜日
横浜市にあるYKでインターネット・SNSの安全、安心に
使用するための啓発ワークショップを行いました！

高校生に



NKワークショップ

2015年7月8日 水曜日
NKでは、LINEやTwitterのトラブルについて大学生とみん
なで一緒に考えて、みんなにネットを使う上での情報判断
力を身につけるための啓発ワークショップを行いました！

小学生と親御さんに



NSワークショップ

2015年7月10日 金曜日
はじめての小学校ワークショップをNSで行いました！スマ
ホや携帯電話を持っている小学生に正しくインターネット
の使い方を説明しながら、ネットを利用する危険性に関す
るクイズを行いました！

2015年活動報告実績

社会に向けた
啓発活動

活動啓発ツール・調査レポートの発行 (SSWSレポート2015)

活動方法や効果、ワークショップを受講した745名生徒たちのアンケート掲載



アンケート 6

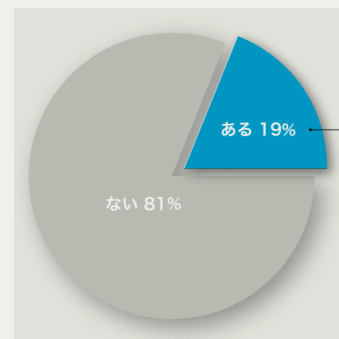
SNSで
いやな思いを
したことが
あるか

約2割が「ある」と回答

悪口や既読無視などを中心に、
いやな思いをしたことがある生徒が約2割。

大学生たち(Re:inc)の
一言コメント

・既読無視の捉え方は人それぞれ。想像していたより、既読無視をネガティブに捉える生徒は少ないと思った。
・「文字だから上手く伝わらずトラブル」というのは、多くの大学生も悩んでいると思う。



その内容

- ▶ 悪口を書かれた 5件
- ▶ 既読無視、ブロック 5件
- ▶ 「言葉ではなく文字だから上手く伝わらずトラブルになった」
- ▶ 「自分に関係ないケンカにまきこまれた」
- ▶ 「無許可の変顔をTL*に勝手にのせられた」
- ▶ 「自分のなりすましをされた」

*TL: タイムライン

有効回答者数:101人

中高生の5人に1人はSNSで嫌な思い

2015年活動報告実績

効果

社会に向けた
啓発活動

活動啓発ツール・調査レポートの発行
(SSWSレポート2015)

「中高生5人に1人がSNSで嫌な思い」がYahoo!ニュースに取り上げられて反響。

SNSの
反響

YAHOO! JAPAN ニュース IDでもっと便利に新規取得 ログイン

キーワードを入力 ニュース 検索

トップ 速報 写真 映像 雑誌 個人 ビジネス 特集

主要 国内 国際 経済 エンタメ スポーツ IT・科学 ライフ 地域

中高生5人に1人がSNSで嫌な思い…既読無視や悪口、写真の公開

リセママ 3月22日(火)11時15分配信

日本スマートフォンセキュリティ協会 (JSSEC) は、中高生向けの「大学生と生徒たちが一緒に考えるセキュリティワークショップ」の開催レポートを公表した。92%の生徒が満足し、77%の生徒がスマホの正しい使い方について考えるきっかけになったと回答している。

事前アンケート：使っている端末 ネットの付き合いがある人と会ったことがあるか？ その結果は？ (回答画像)

日本スマートフォンセキュリティ協会 (JSSEC) は、学生団体Re:inc (リンク) と共同で中高生向けの「大学生と生徒たちが一緒に考えるセキュリティワークショップ」を2015年より開催している。スマートフォンやインターネットを安全に使うため、ソーシャルメディアで起きる人間関係のトラブルなどに悩んだ経験のある同じ世代のお兄さん、お姉さんたちと一緒に考えることを重視した普及活動を行っている。



中高生5人に1人がSNSで嫌な思い…既読無視や悪口、写真の公開

リセママ 3月22日(火)11時15分配信

253

ログインしてコメントを書く

すべて オートコメント(0)

共感順 新着順 古い順 そう思う順

sno***** | 2016/03/23 00:31
今の時代に学生でなくて良かった。常に誰かと繋がってなきゃいけないなんて、思詰まっちゃうし耐えられない。子供がもしスマホ欲しがって、それがなきゃ友達無くて言ったら、間違いないく「スマホないと維持出来ない友達友達じゃない」って言うと思います。

返信 11 743 44

tan***** | 2016/03/22 12:57
他のことはともかく、既読無視が嫌ってどういうこと？ 読んだら必ず返事書く義務でもあるのか？ 話が終わったり返事する内容じゃなければ返事しなくて普通じゃないの？

返信 9 763 32

jag***** | 2016/03/22 14:33
ラインを初めSNSにどっぷり浸かった奴らは面倒くさい。テレビ局のTwitterで話題の面白画像とかうざったい。誰かと常に繋がっていたいとか意味分からない。

返信 8 723 26

253人が
コメント

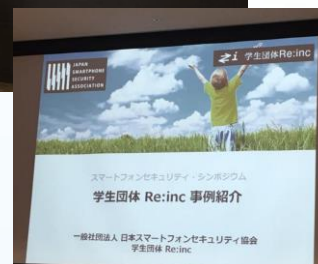
リセママ
ReseMom

・様々なSNSで
反響を様々な
コメントが出ました。

2015年活動報告実績

広報活動
社会的連携

「スマートフォン セキュリティ シンポジウム」 ～ 生徒と大学生と先生で考えるスマホとの付き合い方 ～



千葉大学 藤川大輔教授



東京都立練馬高等学校
正木成昭教諭

■日時： 2016年3月12日（土）13:30～17:30（受付開始 13:00～）

■場所： TKPガーデンシティPREMIUM神保町
（東京都千代田区神田錦町3-22 テラススクエア3階）

2015年活動報告実績

効果

広報活動
社会的連携

「スマートフォン セキュリティ シンポジウム」 ～ 生徒と大学生と先生で考えるスマホとの付き合い方 ～

様々なメディアにとりあげていただきました。

マスコミ
掲載

Security NEXT Cyber Security 子どものセキュリティ教育、年齢近い学生が活躍

学生ボランティアグループの「Re:inc」は、日本スマートフォンセキュリティ協会（JSSEC）などの協力のもと、若年層に向けた情報モラルやセキュリティに関するワークショップを展開している。子どもと年齢近い学生ならではの啓発活動は、徐々に広がりを見せている。

「Re:inc」は、もともと大学のゼミからスタートしたサイバー防犯ボランティア団体。現在、4大学から情報モラルや情報セキュリティ、法学などを学ぶ学生15名が参加している。

JSSECや神奈川県警察と連携。これら団体の支援により得たセキュリティに関するノウハウを活かし、社会啓発活動の教育プログラムを開発。小中高校生を対象に情報モラル教育を展開している。

具体的な活動は、2015年3月にスタート。ひと月に1度ほど学校などでワークショップを開いており、参加生徒は約1000人にのぼる。情報セキュリティに限らず、SNSを使ったコミュニケーションの取り方など情報モラルの重要性などを伝えている。

同団体代表の窪田大悟氏は、スマートフォンを持つ子どもが増加し、SNSなどの利用も増える一方で、情報教育が追いついていない現状を訴えている。



窪田氏（画面左）と小池氏（画面右）

サイバーセキュリティに関する情報ポータルサイト
サイバーセキュリティ.com
資料請求!

HOME セミナーレポート > 【スマートフォンセキュリティシンポジウム】一般社団法人日本スマートフォンセキュリティ協会/学生団体Re:inc

「スマートフォンセキュリティシンポジウム」一般社団法人日本スマートフォンセキュリティ協会/学生団体Re:inc

インターネットはともて便利なツールであり、無くてはならない社会的インフラです。しかし、子供たちが使用する場合には、SNSから始まるいじめや、莫大な画像投稿による個人情報漏洩などの問題点が浮き彫りとなります。

今回は、一般社団法人日本スマートフォンセキュリティ協会(JSSEC)と学生団体Re:inc(リンク)が主催する「スマートフォンセキュリティシンポジウム」に参加し、お話を伺ってきました！

【参考】一般社団法人日本スマートフォンセキュリティ協会(JSSEC)
【参考】学生団体Re:inc(リンク)

「スマートフォンセキュリティシンポジウム」 ～ 生徒と大学生と先生で考えるスマホとの付き合い方 ～

第一部は、教育方法学、授業実践開発を専門とし、メディアリテラシー、読書、企業との連携授業、いじめ・学級経営等の研究を行う千葉大学教育学教授藤川大輔氏による基調講演です。

ICT 教育ニュース ict-eneus.net

が参加している。

2015年3月から、「大学生によるセキュリティワークショップ」活動を開始。参加した生徒から事前にアンケートを取り、小中高校のインターネット利用状況や意識調査・分析を実施した。ワークショップ実施校は、東京都立高校1校、神奈川県立高校1校、神奈川県私立高校1校、東京都立中学校1校、神奈川県立中学校1校の5校。回答者は145名。

まず、使用している端末の種類を尋ねたところ、スマホ所有が67%、タブレットを持っているが9%で、フィーチャーフォン所有の14%と合わせると90%がモバイル端末を持っているという結果となった。

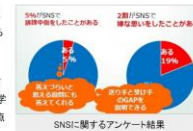
利用ルールを決めているかどうかという設問には、54%が決めていると回答。SNSで談話中傷をしたことがあるかという問いに対し、5%の生徒が「ある」と回答した。逆に、SNSで嫌な思いをしたことがあるかという問いには、「ある」の回答は19%となった。内容としては、「悪口を書かれた」が5件、「既読無視やブロック」が5件のほか、「文字だらからうまく伝わらずトラブルになった」自分に関係のないケガに巻き込まれた」といった事例もあった。

次に、現実社会で面識のない人とSNSやLINEで連絡を取ったことがあるかという問いに、3割の生徒が「ある」と回答し、そのうち4割の生徒が「実際に会ったことがある」と答えた。

また、ワークショップの反省については、77%がスマホ利用を考えるきっかけになったと回答。生徒からは、「話をしてくれる大学生は、歳が近い分、親に言われるより納得できる」、「身近な視点で考えることができた」といった声があったという。



「大学生と生徒たちが一緒に考えるセキュリティワークショップ」で発表を行うRe:inc代表 窪田大悟氏



啓発事業部会 これからの活動2016

2016年啓発事業部会の目標

2015年の成果

学生団体Re:incと活動が始動

2015
SSWSの実行

SSWRの完成
(レポート)

シンポジウム
開催

2016年の課題

①参加する大学生を拡大

②ワークショップの質の向上

③ワークショップのフォーマット化

④認知拡大

2016年の
活動テーマ

スマートフォン・セキュリティ・ワークショップを
全国に普及拡大

2016年の具体的な活動①

2016年の
活動テーマ

スマートフォン・セキュリティ・ワークショップを 全国に普及拡大

実行に向けた施策（活動の3本柱）

①

SSWS（ワークショップ）の質の向上とプログラムパッケージ化

- 現状のSSWSの見直し（プログラム内容の見直し、ネタの追加、応用化）
- WS作成のマニュアル作成（基本シナリオ作成）
- 簡単にワークショップシナリオが作成の素材集の開発

②

より多くの大学生の参加と活動意識の向上

- 学生のメリット可視化（就職前にセキュリティへの意識や人間関係に強くなる）
- メンバーインセンティブ（企業紹介や就職活動へのプラスα）

③

SSWSを全国的へ啓発そして更に発展させる

- 日本全国の同様の活動している学生団体・ボランティアとの連携
- 啓発イベント実施（WSアイデアソンの開催）

誰でもが
参加できる
実行できる
活動に

2016年の具体的な活動①

①SSWS（ワークショップ）の質の向上とプログラムパッケージ化

SSWS普及のためのパッケージ化施策

具体的な
施策

当日
(左ページからの続き)

ワーク

発表

3
振り返り

SSWS
の流れ

お互いの自己紹介(グループごとに生徒が実施)
A4用紙に「名前」「趣味」「スマホを持ち始めた時期」「SNSのイメージ」を記入し、一人Dと発表してもらった。

シナリオの説明

グループディスカッション

シナリオの課題をグループで考える
自分の意見を付せん紙に書いて模造紙に貼っていく
「どうしてそういう意見なのか」を発表しながら、お互いの考えを分かち合う
グループごとに意見をまとめる

シナリオ例1
6人の生徒が参加するSNSグループでAさんが突然退席している状況
課題1:Aさんなぜ退席を辞めさせるのか。
課題2:退席された人はどう感じるか。

シナリオ例2
BさんたちがAさんに対して悪口を書いた。
課題1:このあと、AさんやBさんたちにどのようなことが起こるか。

グループごとに発表

質疑応答

まとめ

- 画面の向こうにいる人の気持ちを考える
- 人それぞれ事情があり、SNSに関する考え方も違う
- 一瞬の感情で行動してしまうと、取り返しのつかないことになるところがある
- つまり、SNSを扱う上では、「冷静な判断力」を身に付けることが必要

振り返りミーティング
活動に対する感想、反省を行い、よりよいワークショップに発展させる。また、報告書の作成などを行う。

事後アンケート
参加していただいた生徒に対して、今回の活動への満足度や理解度、活動に対する感想、学べたことを記述してもらった。今後の活動に役立てることを主な趣旨としている。

対策

①SSWSマニュアル開発

②シナリオ開発

③ツール開発

誰でも始められる

中高生キャラクター
の開発



2016年の具体的な活動②

②より多くの大学生の参加と活動意識の向上

大学生のリクルーティング対策

大学生のためにセキュリティ講座の開催

<企画意図>

日常スマホやパソコンを、使っている大学生に
セキュリティへの意識を高める、就職にも役立つ
セキュリティのスキルを学ぶ講座を開催。

<目的>

セキュリティに興味の高い学生を活動にリクルート。

日時 2016年6月27日月曜日（予定）17時～

場所 TKPガーデンシティ永田町（予定）

参加人数 最大40人

参加資格 大学生

費用 無料



講師には
株式会社ラック
長谷川様 他
JSSECメンバー
学生団体Rr:inc

2016年の具体的な活動③

③SSWSを全国的へ啓発そして更に発展させる

SSWSの普及と全国展開対策

JSSEC主催 SSWSアイデアソン

各大学や学生団体のチームでワークショップを行い
様々なアイデアを考えるアイデアソンを開催します。

- ワークショップのテーマ開発
- 表現手法・スタイルの開発
- 実践発表・評価研究

日時 2016年11月（予定）

場所（未定）

参加人数 6～8チーム

参加資格 大学生チーム



成果物

- ドキュメントビデオ番組
- 開発レポートや宣言

● 大学生と交流するメリット

- ・これからのビジネスの中にも取り込める、アクティブラーニングを学べる。
- ・大学生、若い世代の意見や思考を知ることができる。
- ・実際のリクルーティングに役立てる。（交流会も行います。）

● 啓発事業部会へ参加のメリット

- ・CSRやCSVの活動をJSSECとして実践し学べる。
- ・ワークショップや、アクティブラーニングを取り入れる。（実験できる）
- ・マーケティング活動を学べる。

非常に有意義な活動です。ぜひご参加ください。

パブリックリレーションズ部会 振り返りと今後

パブリックリレーションズ部会
部会長 田上 利博
(サイバートラスト株式会社)

何故？ JSSECは

結成当初からPR部会を設置したか

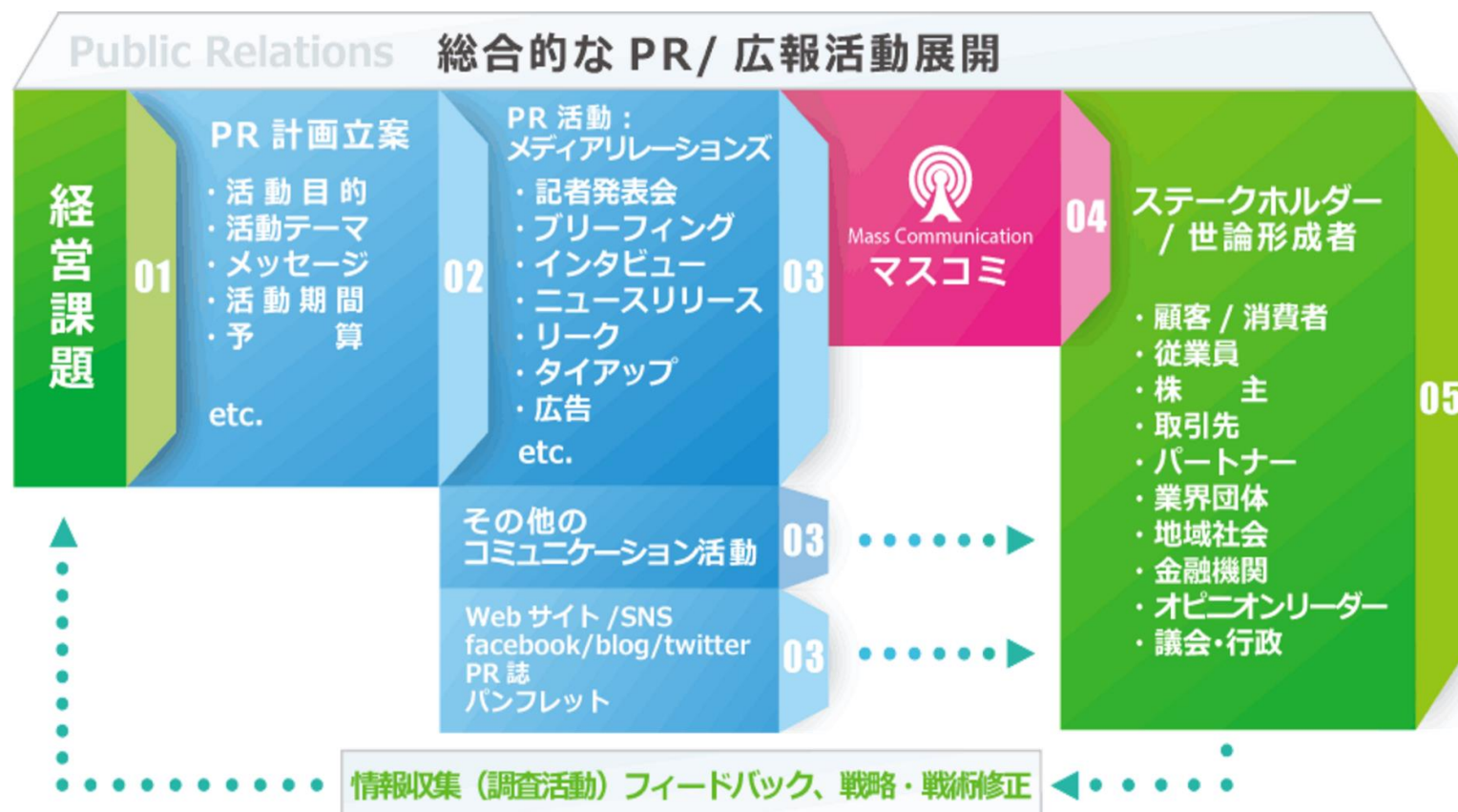
大きな振り返りとして
「啓発活動とは、**実りある活動**と
その活動を**社会に知らしめる活動**の両輪」



社会に知らしめる活動 = PR活動
JSSECは発足時からそう考えていました

JSSECのPR活動の範囲

・PRは終わりのない、継続性が必要な活動



その中で力を入れてきたこと①

- ・低予算の中で3つの施策でPR力を強化する。



その中で力を入れてきたこと②

①

記者インタビュー、ブリーフィング

②

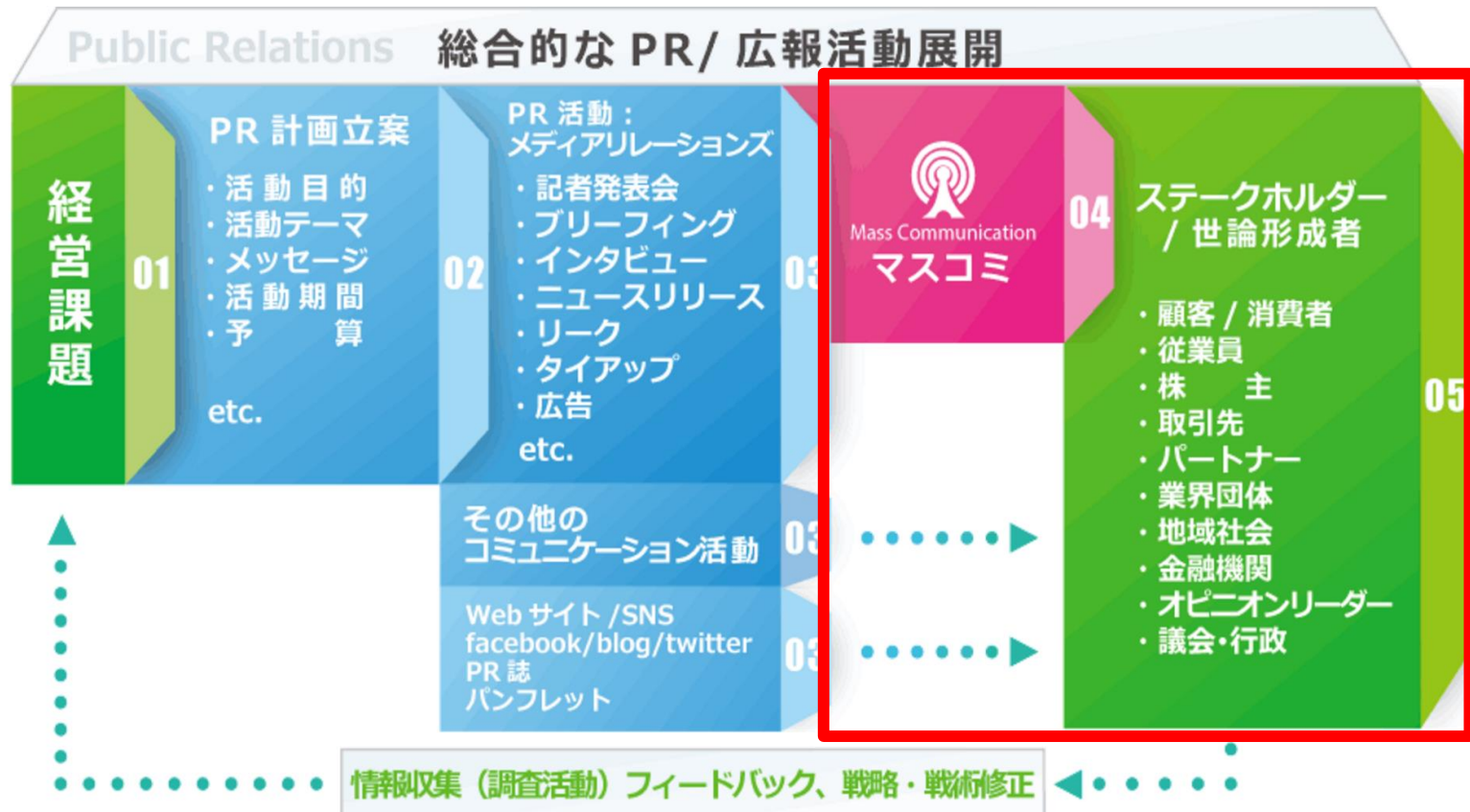
シンポジウム開催、
各種イベント、講演の後援、協賛

③

オンラインメディアでの啓発（ Web、SNS ）

PR活動の昨年の実績

- メディアでの記事掲載（インタビュー含む）



PR活動の振り返り（実績）

2015年度の活動実績

- ① **利用者（利用部会）** 向けガイドラインの啓発活動、メディアリーチ
- ② **開発者（技術部会）** 向けガイドラインの啓発活動、メディアリーチ
- ③ **スマートフォン企業利用実態調査分析**
- ④ **スマートフォンセキュリティ・ワークショップレポート（啓発事業部会）** の啓発活動、メディアリーチ

PR活動による課題フィードバック



まとめ

- メディアリーチによる啓発、PR活動
- 情報収集、利用者、技術者のニーズ調査
- ニーズ収集、把握による戦略、戦術の検討
- JSSEC各部会へのフィードバック

これからのJSSECについて ディスカッション

JSSEC ACTION 2016

スマートフォンからIoTの世界へ
進むべき世界、守る力とともに



利用者のモラルについて、変化、対応など

JSSEC ACTION 2016

スマートフォンからIoTの世界へ
進むべき世界、守る力とともに



広範囲になる中、まずどのような分野から立ち上げていくのか？

JSSEC ACTION 2016

スマートフォンからIoTの世界へ
進むべき世界、守る力とともに



ドローンやウェアラブルを取り上げてきたい
がその反応は？

JSSEC ACTION 2016

スマートフォンからIoTの世界へ
進むべき世界、守る力とともに



5年、10年後、
デジタル技術が進化・浸透した社会
においてスマホの役割はどうなるか？

JSSEC ACTION 2016

スマートフォンからIoTの世界へ
進むべき世界、守る力とともに



これからのセキュリティ人材に
求められること

JSSEC ACTION 2016

スマートフォンからIoTの世界へ
進むべき世界、守る力とともに



高齢者への活用について

JSSEC ACTION 2016

スマートフォンからIoTの世界へ
進むべき世界、守る力とともに

JSSEC ACTION 2016

スマートフォンからIoTの世界へ
進むべき世界、守る力とともに

閉会のご挨拶

JSSEC理事・啓発事業部会長 小池 勉